



## 発刊にあたって

長崎県総合水産試験場長 小坂 安廣

このたび「長崎県の漁具・漁法」を発刊することができました。本書には、本県漁業の発達の歴史や各種漁業の沿革や現況について記載すると共に、先人達が工夫・改良し、育んできた漁具等、近年営まれている漁具漁法を掲載しています。

元来、沿岸の漁業は、各地の漁業者達が自分たちの漁場に適した漁具漁法を考案して使用し、後継者達が経験に基づく改良や新たな資材の導入によって発達してきました。このため、使用される漁具漁法は地区毎にそれぞれ特徴を持っていましたが、社会・経済の発達に伴い漁業情報の交流が盛んに行われるようになり、他地区から新たな漁具漁法の導入も盛んになってきました。

本県沿岸漁業は、水産資源の減少や魚価の低迷、担い手の減少や高齢化等多くの問題を抱え、厳しい現実直面しています。総合水産試験場では、平成13年3月に策定された「長崎県水産業振興基本計画」に基づいて実施される各種施策の実現に必要な試験研究及び技術開発を計画的に推進するため、平成13年12月に「総合水産試験場試験研究基本計画」を策定し、この「基本計画」に基づく研究を開始したところであります。

折しも平成14年（2002年）は、明治33年（1900年）に水産試験場が西彼杵郡深堀町に開場されてから1世紀を経過し、新たな世紀を歩み出したばかりの年にあたります。この時期に、本県沿岸漁業について、過去の経緯や現在の状況と漁具について集大成した本書を発刊することは、本県の沿岸漁業史として大きな意義を持つと共にこれからの漁業経営の改善や漁業技術の改良にも役立つものと確信いたします。

本書が多くの漁業者や水産関係の方々の座右の書として活用頂き、漁業者の経営安定、ひいては本県漁業の振興に寄与できることを切に希望します。

平成14年3月